

## 平成27年度第1回胆振日高障がい者雇用支援地域合同会議

### 会議次第

開会挨拶 胆振日高障がい者就業・生活支援センターすて〜じセンター長 鹿野内賢士

行政報告 障がい者雇用を取り巻く環境と今後の取り組みに向けて

報告者： 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構北海道障害者職業センター

北海道障害者職業センター主任障がい者職業カウンセラー

佐々木 直人 氏

情報提供1 地域就労支援構築モデル事業について ー胆振日高障がい者就業・生活支援センターー

報告者： (株)北日本調査社 代表取締役

伊勢田 和幸 氏

(株)ピアールセンター 事業部部長

小黒 朋寛 氏

情報提供2 就労B型事業所利用に関わるアセスメントについて

報告者： 伊達高等養護学校 進路指導部教諭

安井 悟史 氏

胆振日高障がい者就業・生活支援センター 主任就労支援員

今野 さおり 氏

閉会

## 〈会 議 報 告〉

会議の名称	平成 27 年度第 1 回胆振日高圏域就労移行支援事業所連絡会議
開催日・参加者	平成 27 年 5 月 22 日(金) 13:00～16:00 参加者 27 名(事務局含む)
会 場	苫小牧市民活動センター 2F研修室A
〈会議内容〉	
開会挨拶 胆振日高障がい者就業・生活支援センターすて～じセンター長 鹿野内賢士	
議題 1 ) すて～じのH27 年度支援体制について	
●年間スケジュールの説明を行い、今年度の新たな取り組みとして、登別市の他に白老町・苫小牧市・日高町で役所の相談室をお借りして、出張相談を実施する。基本的なスタンスとして、相談者がいなくてもスタッフが常駐する予定。	
●在職者の集い(仮称)について、今年度は室蘭市・苫小牧市・日高町でも開催する予定。	
議題 2 ) B型利用に伴うアセスメント対応について —現状と課題—	
●そもそもの始まりとして、国と道の考え方に相違があった。すて～じとしては、地域に合わせた考え方を大切にしながら、ご本人の不利益にならないように取り組んでいきたい。	
●ダイレクトBのアセスメント(例外的なものも含む)すて～じとしての考え方についてアセスメントについては必要があれば行う。アセスメント表については、今後、ナカポツセンター会議等で情報交換しながら、ナカポツ共通のものにしたいと考えている。	
「例外的なもの」の考え方について、就労移行支援事業所がない地域はすて～じで動かざるを得ないと思っているが、飛び地でも利用可能であれば検討していただきたい。	
●ナカポツのアセスメントマニュアルが出る予定は？	
現時点では出ていない。マニュアルの発行を待っているわけにはいかないので、すて～じのスタイルで行っていく。	
●現時点では市町村の相談支援事業所はサービス等利用計画作成で飽和状態と聞いている。この状況で、就労移行支援事業所を利用するための計画を作成するのは困難だと思うが、高等養護学校の夏の実習にどうやって間に合わせるのか。	
市町村の柔軟な考え方や代替プラン提示などのアプローチが必要だと思っている。各地域で動きがあれば連絡していただきたい。	
議題 3 ) 困難ケースについて…ピアチェーレさんからの報告	
●ひとつひとつ改善しないと自分の目標に到達しないと、しつこくアプローチする。とにかく諦めない。そして、目標が達成したら、ご本人の状況に合わせて誉めることも必要。	
●就労支援事業所が生活の全てを支援できるわけではないので、家族支援も含めて相談支援事業所に介入してもらうことも効果的である。	
*支援者があきらめず、粘り強く接していく。	
議題 4 ) 必要と思われる社会資源と地域資源	
●制度的なものが先行していて、事業主に障がい特性などが伝わりづらい側面がある。	
議題 5 ) その他	
●次回会議を来年 2 月に予定しているので、会議で取り上げてほしいことがあったら、連絡いただきたい。	
●6/25(木)合同会議開催について～告知	
閉 会	